

「野火」

☆OIRA・NII夏のキャンプ☆八月七日から十五日まで静岡県富士宮市で行なう。参加は日時を含め、自由であるがまえもって予約すること。参加費千円。食費、宿泊費等(一日分)は一般千円、学生・無職者八百円。予約の受付場所は左記、いずれか一ヶ所に。説明も。

・東京・文京区春日一の二の七の五〇六 広瀬慎二

世田谷区梅ヶ丘二の八の十一 千春荘 山部嘉彦 (〇三ー四二七ー八三一五)

・京都・左京区田中門前町二八の五 羽熊直行 (〇七

五ー七二ー一四五〇七)

・富士宮・富士宮市大中里七〇〇 センター分室 中村隆司 (〇五四四ー二一七ー一九〇五)

各種講座、仕事、催し物があります。奮って参加を。

☆夏まつり☆美しい星たちの村主催で赤城山小沼湖畔・八月七日から九日まで夏祭りを行います。コンサート、フリーシアター、バザー、シンボジウム等多彩な行事が行なわれます。共同体太陽の初の「おまつり宣言」は祭りを地球家族の聖なる行事にしようと語っている。新しい祭りを作るためにも参加を。主体的参加者、参加グループは共同体太陽の都情報局へ連絡を。

前橋市下小出町七五の五 共同体太陽の都・情報局

☆雑誌の紹介☆障害者新聞V不定期だが送料共で一号分三〇円、まとめて申し込んで下さい。障害者という日常生活者にはとても縁遠い人のように考えられます。しかし障害者たつて人なのだ。狭い家庭の中にしばしばとじ込められその身体的障害ゆえに家人に迷惑をかける。かけたくてかけるのではなくどうしようもなく、そうなってしまう。福祉行政が考えられている時、障害者の人々は発言し、なにかをしたいのです。読んで下さい。東京都文京区千石二の四四の三 白砂巖方 障害者情報センター

☆連・林パスポート訴訟☆連根藤さん林登達さんは台湾の人達です。彼らは国民党の日本国内における特務工作などにいやけがさし、国民党旗をひきさきました。所がこれに対し国民党はパスポートを取消そうとしています。パスポートがなくなれば日本にいられるのではなく、強制送還です。連・林裁判を皆のまえに引き出し、支援を。そして裁判長に人権裁判を訴えよう。

裁判・京都市中京区丸太町柳馬場東

京都地裁民事四部 菊地博裁判長

連絡先・豊中南郵便局私書箱八号

連・林裁判を傍聴する会

☆黄清雲さん施呼さん国籍訴訟☆黄・施さんも林景明さんと同じように元日本兵としての国籍訴訟をしています。ところが彼らは林さんより二年遅れた訴訟なのに最終弁論を行ない、すぐ判決をだすと裁判所側がいつてきました。充分な審理もないままに、黄・施さんの訴訟は林さんの訴訟よりあまり知られていないので判例を作ろうとする意図からなのです。台湾への送還が死につながっていることを考えて下さい。抗議と支援を。

連絡先・東京都目黒区下目黒五の三四の十六 原方

林景明さんを囲む会

☆大杉栄ら墓誌建立募金のお願い☆静岡県沓谷一丁目一四七番地静岡市沓谷谷霊園の大杉の墓のかたわらに墓誌を建てたいというもの。送り先は

現金書留・静岡県富士市伝法上中町二七一九・富士地区

合同労組・墓誌建設委員会

郵便振替・郵便振替口座・名古屋二〇一三三 福田武寿送 金・静岡県労働金庫富士支店・普通預金口座〇七

四七四〇八・墓誌を守る会代表近藤真柄

「海外だより」

☆アイルランド政府は死刑判決を撤回せよ☆昨年九月十一日、ダブリンで銀行強盗があった。警察はこれをアナ

キストの仕業と発表、見込み捜査によって百余名が捕えられ、拷問を受けた。本年六月九日、ムレイ夫妻が殺人罪で死刑の判決を受けた。この銀行強盗の裁判は特別刑事裁判所で陪審員なし、審理二十日で死刑の判決をしたのだ。七月九日が死刑執行の日と聞く。いまそれを撤回させるために世界各地で抗議が行なわれている。君も。抗議先・千代田区三番町興和ビル内

アイルランド共和国大使

☆スペインより☆

カタルーニヤ地域連合

バルセローナ 六月七日、一九七六

アグスティン・S・ミウラ殿

親愛なる同志

パリからあなたの住所を教えてもらいましたが、スペイン語の手紙をあなたが読めるかどうかを惧れて、あなたに手紙することを躊躇していました。

しかし、あなたの名前から判断して——典型的なカステイリヤ型ですから——(あなたに手紙)することにしました。われわれの(言わんとすることが)理解されるであろうこと、又、あなた並びにその他の同志が、リベルテールの視点から、又、自治管理された連帯に基づく革命の達成のために働く真正の希望をもっている有効

第 七 號

FARMISTO

行發本納日五十月九年二十正大

小作人

東京本部 隔千駄木町二一〇
事務所 豊村運動同門
星替東京六二四一二番

發行編輯 望月桂
印刷人 佐々木
東京府北多摩郡府中町五五七番
發行所 小作人發行所

代表者制度過信の弊害

「私達自身の努力のみ私達を解放す」

な通訳者を有しているであろうことを確信しております。この仮定から発して、エスパーニヤの状況をあなたに伝えたい。(以下)

エスパーニヤにおいて、四十年の弾圧と犯罪の後、民衆の意欲は進み、この自発的な再生の中からO N Tは再建されつつあり、動揺している青年達にとつての避難場所としてかなりの重みをもつてきております。彼等青年は、過去のアナルコ・サンジカリズムに解放のオーローラと強権主義という通りつた道から逃れるための流れを見出し出ております。

しかし、これら青年達は、半ば混乱しつつ動いており方向つくと、直接行動のサンジカリズムの途を、責任ある倫理をもちながら歩くことができるように、われわれの過去についての情報を必要としています。

彼等すべては、豊富な資料の配布ルートを望んでおります。しかし、われわれには、この仕事を組織的に効率的に実行するには、経済的な手段を欠いております。ここにおいて、あなたがたにわれわれの状況を説明すると同時に、資料の提供と、実助的な助言、そして、もし可能であるなら、金銭的援助をお願いしたい。

カリスタの国際的なセンターに頼ることもできず、見捨てられており、誰に頼っていいかもわからずにいます。それ故にあなたがた、理想と万向の同志に対し、あなたがたの経験と、可能であるならいくばくかの経済的援助をお願いする次第です。

同封しました「ソリダリダード・オペレラ」——これは生れた諸組合によって作りあげられたものです——によって、組織の状況と、その組織を（又は「ソリダリダード」）支えている熱狂をみていただけたと思います。しかし、あなたがたも確認されるように、われわれは、これを印刷して配布することもできません。

あなたがたの熱烈な返事を待つとともに、われわれのメッセージを御地の同志諸君にお伝えいただくことをお願いする。

親愛なる同志諸君に

カタルーニヤCNT地域委員会へ
並びに海外担当委員会よりの心からの挨拶を

共産主義者、社会主義者、キリスト派は様々の場所からの援助を受けている一方、われわれはアナルコシンジ

府縣會議員の選舉の日が近づいた、府縣會議員選舉が大分早急の度は日に日に高まつて来た。私達小作人の政治に参加し得る機會である、この機會を逃してはならぬと、叫びの聲は筆に口に噴ましくなつて来た。既にある者は馬を陣頭に進めたものもあるやうだ。

まことにこれは私達小作人共の政治に参加し得る機會であらうが、政治に参加するのは何んなことであらうか。私達はこの機會にこの點を考へて見ることが肝要である。

11

最も胡麻化の上手なものを以て政治の上手なものと云ふ

のとする。私達の祖先はこの政治に胡麻化されて来た、そして私達は今現在、百姓は殺ろさず、生さずとは、之れ彼等の古い昔から習ふたので、斯くして彼等は私達を支配し、私達を搾取して来た。そして今も尚ほそうして居る。

111

私達に政治に参加さす、この参政権なるものは、彼等支配階級の奴等が三年か四年に一回の選挙に

週間

それが参政権であるとされても仕組まれたものだ。選挙することゝ参政権、そんなことで彼等は私達を胡麻化す、けれども選挙すること何んで政治に参加することになるのだ。

私達の代表者として政治に
参加せしむるのだ。代表
者が、代表者に、選挙された
後彼れは果して私達の利益を
代表するだらうか、彼れ果し
て私達の利害を代表して働く
ことが出来るだらうか。選挙
された後は彼れを拘束するも
の、は彼れであつて私達ではな
い。従つて彼れの代表は彼れ
の利害であつて、私達の利害
でない、只彼れの利害が私達
と一致する場合に於て、稍私達
の利害を代表するらしく見て
ゐるのみ、けれども彼れに見
選ばれざる以前ならば兎に角
一旦代表者に選出さるに於て
は彼れの地位は昨日の彼れで
はない。彼れは實に支配階級
の政治に参加する彼れである
のだ。之れが何んで私達の利
害を代表するものと云へやう
然かも私達が選挙した、それ
故に私達の代表者と云ひ、之
れが即ち、

四
こ
之れ
に
實に歐米先進國の無産階級の代表者として議會に送

れたものが、胡麻化以外に何等爲す所なきを見て明かであるのだ。私達はこんな胡麻化をそう繰返すべきものでない。

私達の利害も永久に永劫に私達自身に依りて代表する。之が解決は私達自身の活動に達し自身の努力に依りてのみ依りて得らるべきものでない。選挙は實に支配階級が私達に代表を選びしめ、私達の活動に彼等の支配、彼等の搾取を安全且つ自由なしむる手段であるのだ。

“五

或は云ふ、代議士の義士、村町會及び府縣の會議のきさきやううて私達の負擔に重大なる關係がある、それを誰も否認すまい、けれども彼等をして私達の權利にきかぬとして私達議員でない、私達の選んだ代表者の働きではない、それから斯く見えるのは、彼等は彼等の胡亂化の必要か、但しは又た私達自身の聲、私達自身の努力の結果である。私達が代表者を選んで安心して待つて居るならば決して私達の有利に解決するものでない。

地租委譲に就いて

「地租委譲」とは、簡単にいへば、國稅である地租を地方稅に委譲して、土地を持つてゐる奴の税金を軽くしようといふのだつまり地主の負擔を軽く仕様といふのだ。私鐵小作人がださなるといふのではないのだ。だが或は政治家共はこのいふふだらう。地主の負擔が輕くなれば勢ひ小作料が安くなるから小作人の負擔も輕くなるだらう。」と。だが地主は、地租委譲が實施されたらちと言つて、果して小作料を安するだらうか。否々

千度も否だ。彼地主共は決して、尋常一様のことで小作料を安くするものか。やつぱり私達小作人が、

つい五六日前の新聞に、農商務省の何とかいふ馬鹿技師が「動力機械使用と小作争議」と題して、實に馬鹿々々しい官制滅法の議論を發表してゐる。なんでも大坂、岡山の二三の地主が、動力機械を買つて小作人に使用させてゐるが、小作争議が少しも起らない。かく全國の小作人に動力機械を使用させる様にするれば、小作争議も起らないといふのだ。だが若しこの技師がいふように、動力機械を使用する様になれば、小作争議が起らないとしたら、大動力を使用する工場に労働争議が起らな

たではないか。
御料地小作人諸君
は以上とくどくと事實を並

御料地小作人諸君
御料地の小作問題は、宮内
省に依頼してゐたのでは、決して
解決されないといふ私は前記
として解結されないと私は前記
で言つた。だがもうそろした
事を理論の上からとやかく言
ふ必要がなくなつた。何とな
れば、北海道神楽村御料地争
議の最後の解決策だと稱して
宮内省の今後の態度を見れば
ハッキリとウナヅカれるから
だ。彼宮内省は常に公平（中
間地主と小作人の間に立
てて）を張つて居ながら、實際
の都合になつたらうだ。殆ど
中間地主擁護を以て始終
してではないか。實際耕作し
てゐないものには、決して拂
下げないといふに明して居下
げなうだ。今度彼宮内省の示した解決
策は、たゞ地主に七割五分、
小作人に二割五分なんて、殆
んど問題にならないぢやない
か。それ處ではない。頭速
と愚の點に附いて、地主と
共に同時に終始小作人を難詰し

べたでなくともよいだらう。彼宮内省の目には小作人の貧困は見えないのだ。否、若し見えないので、そんな事は彼等は問題でないのだ。彼宮内省の考へることは、只如何にして中間地主を擁護してやうかと。如何にして中間地主の横暴を支持してやうかといふこと丈けなのだ。

ただ少しでも彼宮内省の頭を震ますのは、常に公平振つてゐるが故に、幾等かでも公平らしくゴマカソといふことなのだ。

御料地ごりょうち小作人諸君、もう宮内省などのマヤカシに乗つて、彼等に頼るのは止した方がいい。

實際耕作する者以外には、貸下げ、若しくは、押下げをしない。こゝへ、如何にも小作人に味方したやうな宮内省の根柢なんかあてにした處で駄目だ。

團結は力

小作人の勝利

岐阜縣安八郡大嶺町字五反、
郷の小作人二百名は二十名の
地主に對して年貢米永久二割
減を要求したが地主共は懸隔
の結果、「不當な要求には應じ
られぬ」と跳ねつけて土地の
返還と年貢米不拂分請求の差
押へを楯に取つて小作人を強
したがる、そんなコケオシに
たまげやうな小作人は一人も
もなく安藤鑄六君外二名が小
作人側を代表して『お前等は
鑑者を買つたり酒を呑んだり
する金を少しでも多く俺等か
らカッパヲ積りで不當な要
求だなどいぬかすのだからが
俺等はほんとに食へぬのだ。

これを跳ねつけ結果を堅うして地主に頑強に抵抗した。地主側は小作人の家財を假差押へにするやら警察に嘆願してオドカスやら百方手を盡したが小作人の陣容はビクともしないのみか、糧附時に際して八十町歩の土地を返還した。狼狽した地主は他村から口雇を頼まうとしたが、急がしい最中とて猫の子一匹働きに来る者なく地主は八十町歩の土地を前にして怒めしそうに指をくわへて睨めてゐたが、耕す人がなければ一粒の米も出来ぬとハジメて悟つたのか地主は「御要求も容れままし差押も解除しますから、ドウツツ働いて下さい」と泣きづらをして嘆願に来たので、小作人は「これから愚圖々々ぬかすと働いてやらぬぞ」と長いだけは罷解してやると、長い間の争議も小作人の大勝利となつて解決した。團結は力であることを痛感した小作人達は、近く自主自律の組合を作ると云つてゐる。

「主君印信、藤原朝村字和良比、
地主人主川原家之跡外六名は
も、小作人に對して、今迄の
小作料反當り七圓を十二
に極上げた。この過酷な
上げの通告に對して小作人
は、『今迄の小作料でも
足らはぬや』食はずの慘めな
生活をし來たのだ。この上
向も一度に上げられては人
が干乾しが出来て了ふ」と
を説き聞かせる。學うして八圓に
減らしたといふので、地主は
怒り、欲しいと交渉したが
無益な地主は、錢もまからぬ
目張つたので、地主の願
望にした小作人側は七月
二日、川孫西郎君宅に會
死を請じて、その後まで
小作人返還の場合には結
して同歩調を取る。」と
幸善ひ團結して奮闘中だ
小作人間の勝利を耳にす
ることはないだらう。

植付時に土地

二返

三重縣員辨郡神田村山田の
小作人は昨年の收穫時に際し
各地主に年貢米二割減を要求
地主はこれを拒絶し其の後數

込む

ケ月交渉を續けてゐたが、意に服のない地主共は、強として開闢容れなかつた。小作人側は他村の地主を後援しにして、先づ居村地主に對して土地返還をきつて他村からの日傭ひを防ぎ結束を固めて對抗したが、植附時になつて狼狽した彼主、隣村や近ながら日傭ひを頼まなく斃走した者が誰一人来る者もなく、困り抜いた揚句遂に降参した。小作人側は又も他村の地主に對して同様の要求をなし必勝を期して苦闘

込む

岡山縣兒

の悪地主、徳山常太郎は小作人小野竹次君外數名に對して土地賃料請求訴訟を裁判所に提起し、小作人の命の親である米を差押へた。これを知いた同村の山本延二君は五月十三日の夜、前記悪地主宅に躍り込み

と散々膏を搾り、米の封印を破棄した。廣岡山監獄の米決に入れ

火の手を揚げた、熊

人々都村の小作争議の時、時、特權階級の罪がみ
 にくは暴露された。由來當
 派に分れ、役場と派の御用
 小作人として優遇を受けてゐる。紀元は大正八年勃發した
 得米騒動を請願運動に際して
 地主側は受けつ小作人の請願で
 なればは受けるべしと云ふ。
 つて出来たものである。村長
 松島吉吉は、貧困の小作人か
 村五千圓を、取り立て、尙基
 本財産税内金を加へ三千
 圓を該運動に使用した事が
 判明し、業務横領として今裁
 判問題となつてゐる。
 植屋殿の罪狀は、諸君の村に
 汚染してゐるだらう。

近代農業の傾向

配しながら其の收束するやうに、百姓は想像する。朝から晩まで働き続けて、其の報ひとして、はた、粗な糶米と、乾かびたパンと、悪い飲み物とをうづと手に入れるだけの家族を想像する。

そして、此のやうな惨めな人々の爲めに、社會が持ち出す一番いい救済策と云ふのは、其の租税か地代を減らすと云ふ事にすぎない。人々は百姓が體を直ぐにして働ける事や、暇な時がある事や、一日數時間働けば、その家族を食ふだけでなく、少くも積つても百人以上を食ふのに十分なる食物をつくり出すことが出来る」と云ふ事は想像もしない

のだ。社會主義者が極く熱心に夢見てゐる未來の農法でさへも、アメリカ流の大農法以上には出ない。その大農法も農業の技術としては幼稚なものである。

二

今日では、進んだ農業家はもつとつと廣大な思想を持つてゐる。その考察によると僅かに「エーカア」(約四反十八歩)の小さな地面がありさへすれば、一家族に充分餘る程の野菜類をつくる事が出来る。そして今迄は牛や羊を養ふのに一頭しか置けなかつた廣さの處で二十五頭を養ふ事が出来るのだ。その人達の目的は、自分で土を製造することだ。自然の天候や温度に據はらず、若い、育ち盛りの植物の附近の空氣と土とを温める事だ。

要するに、從來五十エーカ

アの土地で收穫したものゝ、
「エーカア」の土地で少しも過
度の働きをしないばかりで
なく、前よりも少ない勞働で、
つくり出す」と云ふのである。
田畑を耕すに、誰でも「苦
にならずに面白く楽しく出来
る位の時間と勞働ですべての
人間を養ふ事が出来よう」と云
ふのだ。これが現在の最も進
歩した農業の傾向だ。

三
科學的農業論の開祖リイビ
ツビの弟子の學者達か、たゞ
單に學理ばかりに偏つて、終
婚其の針路を間違へてゐる
間に、眼に一寸字もない農業
家が現つて其の新しい路を開
いた。パリやトロイエ、ルウ
エンの市場園藝家や、スコツ
トランドやイングランドの園
藝家や、フランダアスの農民
や、ジェルシイ、ゲルンシイ
の百姓や、シシリイ諸島の百
姓がさうだ。
今日まで、百姓の一家が十
地からつくり出するもので生
ずるには、十七エーカーから

後藤謙太郎

二十エーカーの土地が要つて
しかも、その生活がどんなも
のかは充分よく知られてゐる
通りに惨めな粗末なものが
小作人の叫び

後藤謙太郎

米を作り、作つた米が食はれ
ないこんな制度にだまつてを
れるか

友公

小作人諸君！何て暑いこつた。直射する太陽の下で、焼けた地盤と萎えた青菜の間に、汗にぬれながら、作物の手入れ草取り桑葉つみと、俺ら小作人は休む間もなく、ヒルネすらしてゐられない程忙しい。

小作人諸君！俺らばかりがかうした暑い忙しい思いをしななければならないのは何故ぞか？ 俺らの支配者搾取者の奴らばかりが、海に山に暑をさけ涼しい愉快なゼイタクな生活が出来るのは何故ぞか？ かつて土地と資本が占有されて、文明享樂快適な生活が奴らに占有されて了つた後も、自然の恩恵だけは萬人のものだ！と思ふことは、僅かながらも、より所になくなつた俺らの唯一の慰さめであつた。しかし俺らの上に壓しかぶせられた支配者搾取が頂点に達した現在においては、それすら奴らの占有に委すこと

ろとなつて、俺らは享受することが出来ない。そして非人間的な酷い苦しみばかりが俺らのものとなつて残された。

い。俺らはこの眞夏の現實の
苦惱を痛感することによつ
て、更に戦ひの心意を強新し
用意を怠らぬことにしやう。
小作人諸君！收獲は近い。

俺らの一方ならぬタン精と苦
しみの結晶を、一粒だつて地
代の千分の一だつて、

小作人諸君、喜ぶさと苦しみのなかに十分に戦ひの用意をしやう。

戦ひの力は毎日斯うして苦しみ悶えてゐるとん底生活の中に餘えられるのだ、勇氣を振ひ立てやう。

農村青年諸君へ

小作人諸君……いまの世の中
でだれが困るといつても小
作人ほど困るものは無い。そ
れわなずであるか、小作人諸
君それは彼等掠奪者たる地主

共が諸君の作つた物を奪ひ取
つてしまふからだ、諸君が剛
の日も風の日も朝から晩まで
働いて作つた實に諸君の血で
有り骨で有る米や麥を奪ひ取
つてしまふ彼等地主共を倒さ
ねばだめだ、小作人諸君、政

小作人諸君……先づ
小作人の組合を作らう、自主
と自治から成る自由な小作人
組合を組織しよう、五人でも
十人でも二十人でも直ちに組
合を作つて戦線に起たう、小
数な一つの部落の團結より一
村全部の團結へ……小作人諸

獵地撤廢

山城雲畑村 畑野 生
當地は御獵地に成つてゐて
毎年冬になると東京からイカ
メシイ奴等が來て矢鱈に下手

な鐵砲をブツばなしやがつて
とうとう今年三月村の青年を
撃ち殺しやがつた。村では久
しい以前から鹿や猪が作物
を荒しても法律とか何とかで
村のものは鐵砲を打つことは
禁ぜられその代りまねくその
賠償金を宮内省から拂つてゐ
たのを不服にして機會あるこ

産れた家は他人のもの

産れた家は他人のもので、今立つてゐる此土地も人のものだ、一體此の俺の身の置き所はどこなんだ、馬鹿にするねい同じ地球の上に生れた人間じやないか、意張つても怨

張つても死ねば五尺の墓穴きりだ、

四

イギリス三千萬の人口は、何の輸入がなくても、國內に出来るものだけで、立派に生活する事が出来ると云ふ事は既に十年前に斷言し得られた事だ。まして、今日フランスやイギリスに於ける進歩を見れば、考へ合はせて見れば、現在に百姓がやつてゐるやうな風にどんな瘦せ土のところでも、残らず其の集約農法によつて全體の土地を耕すことになれば、イギリス全體の地面の廣さから出来るもので五六千草間の住民を支へるとしても、人間が、土地からとりいれるものゝ割り合ひにすれば、その人數はまだ／＼ほど少いといふ。

附記 これは現在の經濟學の大謬である。限りある、土地限りない人口を養ふ事は出来ない」と云ふマルサスの説に反對したクロベッキンの一大研究のひきつりです。これから説を追ふて少し載せてゆきますから。愛讀をします。

願つ部しなく一

昔むかしから馬鹿ばかと狂人きやうじんは、相手あうてに出来できぬと相場さうばはきまつてゐる様やうなものゝ、地主ちぬしでありや

こそうはゆかね。甲州東八代郡石栗村の橋川源一郎と云ふのは、五十万からの資産家で、悪徳張の地主で、その弟に武雄といふ、年中裁判所にゴロツイてゐる、訴訟狂とアダナされてゐるのがあるが、是れを向へ廻して、最う二年越も争議を續けてゐる石栗村小作組合の善闘は容易ではなひ、此の組合員数は七十餘人で、組合成立は大正十年の暮、不作が動機で、小作料軽減が問題となつて出来たもので、小作人の要求條件は一反あたりに就き六匁を五匁に訂正であつた。然し地主は、無難作に拒絶した。中裁者も入つたが、まともらず結局土地を返せ、返すと云ふ事になつて、田七十匁地、畑百三十匁地は、青田の間に、丈に餘る電信草や、葉等の雑草が生ひ繁り、キリギリスや蛇の、思ひのまゝの住

りや田の草とり



いと、年貢だけは此の證文で
法廷でとつて見せると頭張つてゐるのだ。再び中藏人も入つて兎に角、田を作りながら話をするとして草を生やした

り様があるものか、草ならいつでも持つて行け、とはね付けた様を始末だ。

いつたい、地主共にとつては田から米がとれ様が、とれま

いがある事はどうでもない。小作人から年貢さへとれば、飯は天からでも降る。か地から自然に湧いてでも出る。さうかの様なつもりでゐる。来る土地を自分の物と心心得てゐる以上、自分さへ飯が食へれば凶年が来なくとも世の中に米一粒なくなるまで草を生やして置く事も出来ると思つてゐるのだ。そうして、主共が強ク張つてのさばるものも人情を解しない訴訟狂が命を金ふして居るのも不審ではないのだ。

だがいつまでも、小作人が望の様に従順である間は無事だが、人として目を醒まし世の中の一切の矛盾を知つた時相手の奴共が到底常識や、理窟で物の判る手合でなく、

う。小作組合の結束と新作戦の研究が肝要だ。

革
期
生

瀧つかいひ汗が目や口へ滴
れ込むのを苦にしながら三番瀬
除草をやつてゐる。彼らが嬉
熱九十度の炎天下に曝されて
倒れてゐる時、金持の奴等は
山に海にあゆる歡樂の贅を
盡してゐることと思へば、階
級世界の甚しさを認識せし
めは居られない。今の世では
儉かか意欲者は生活を保證さ
れ、働く者層が此のまゝのま
ゝ。是れが何時迄でもこのま
ゝ続くだらうか、田舎はいつ
も時勢に取殘されがちだが、
いかなる鍾馗な田舎者でも、時
代の潮流は體に感ずる。現在
平然と行はれてゐる不合理に
對し段々鋭い解剖刀を振ふや
うになつて來た斯うして田舎
にも自覺分子が輩出するやう
になつたが、まだ階級意識に
醒め切れない者もある。だか
ら俺の村で焦眉の急は、總て
の小作人諸君に階級意識をヨ
リよくハツキに階級意識をヨ
リよくハツキにせる事だ。
其れ爲めに俺は雑誌やリッ
レットの配布に努め、座談研
究會を寄りに寄りにやつてゐ

苦境

神戸大
崎

僕の家は代々の小作人だが、家族四人で約一丁半程の小作を^てしてゐるが、一日の勞銀は平均約二十二三錢位にさら^さらない。今時こんな事でどうして暮して行かぬと思ふか、充分働かぬといへば日雇や内職をして^て雇ふのも厭にならないで、取つた米は地主にとられ、肥料代糞費に拂つて餘る處はない自分で取つた米の味も知らず高い米の一升買ひでやつとこ命をつないで行くのだ、どうしても、自分が生活するために米を作つてゐるとは思はれない。役人や、學者や、田草とり一つ知らない社會主義者に小作人の氣持は判るもな小作人を救ふ方の地主は小作人自身だ。全國の小作人は結束しなければなら

筑後 鶴木 翠流

去年豊年貢米の不足のため

平だ

愛知 熱田 伊作

俺の村に此頃色の生つ白い男が「この秋の縣會議員の選舉には小作人の中から議員を選べ。そうでなければ棄權すべしだ」なんて尤もらしいこ

な
ま
め

日 本 日 本

が毎日の様に裁判所にあるが、どれもこれも係り執事の調停で和解か、小作人の敗訴だ。そんなことは分り切つたことだ。裁判所やお役人なんて奴らは地主や金持の味方なんだから。

豊田村の争議の和解條件など見ると

村岡恒之助

小作人諸君！私達は先づ村落共産を守らねばならぬ。私達に若し参政權があらうとすればは權力欲への弊害と、自滅と虐政と侵略の下積となるに役立つだけの物に過ぎない。呢ぶべき資本主義農村政策と農村の機械化を填減しなければならぬ。小作人諸君！耕作者は土の持主であり、利益者だ

は海だ、山

。俺達は今もなし、
なにやかと運動は照

北海道的村岡恒之助

小作人諸君！私達は先づ村に落着いて、其の生産を守らねばならぬ。私達に若し參政權があらうとすれば、それは權力欲への委任と、誠と虚政と暴略の下積となるに役立つだけの物に過ぎない。況ふべき資本主義農村政策と農村の機械化を填補しなければならぬ。小作人諸君！耕作者は土の地主であり用益者だ

しに驚きするのだからけになつて、小作人諸君が田の草をとる様で、婆粟の雜草、地主や工場主のローカー、ヘゴ役人の機械利用の準備に忙殺されてゐる譯だ。此の邊境上の諸君の名前を、雑誌の發端と中止して呉れて、時々雜誌はつて来る間があるが、云落て文通してゐる筆蹟とは随分異なるなどであるが、或地方ではそれが警察と、又パイが邪魔した事も有つてゐる、又パイの名で騒がはれてゐるものもある。直接には運動に迫りながら、間接に壓迫の手の延びる事は覺悟であるが、讀者諸君に望められ、一層元氣を出して、ヘゴメレぬ様にして、正義の味方となれん事を希望する、萬一疑患が急に一月も二月も昔かゝ様な場合は事務所の方へ御回答を乞ふ。

御代表を解いて居る方もある譯だが、金の無いのはお互様その御運進は入る事をお互に助け合ひ救済社會事業にして應分の寄附を歓迎する事にします。御入用の際は何部でも申込み下さい。

○秋の全國的小作人組合同盟の大会も一日と近づいてゐる、大お申込みにならぬ方は早速事務所へお申込下さい、草案も日下印刷中です、お申込み次第直ちに御返附申上します。

○各種仕事事が急に増え、手不足を止むため八月號休刊の事を預言するを得なかつた事を諒す。

日五十月九年二十正大 8

農村地方支部		小作人		七	
農村地方支部	名古屋市中區町字砂田五	青森支部	青森市表信町	兵庫支部	同山市三門橋六九六ノ一
愛知支部	四加瀬市	茨城支部	水戸市表信町	岡山支部	岡山支部
多摩支部	東京府多摩郡町五七七五	千葉支部	千葉市表信町		
和歌山支部	和歌山縣南郡町	富山支部	富山縣下新川郡下立村		
關西支部	大阪府南區水町七九	鹿兒島支部	鹿兒島縣大島郡古仁屋		
淺口支部	同山縣淺口郡六條院村中	福岡支部	福岡縣八女郡北山村小倉		
廣島支部	廣島縣吳市柳町八七	岡山支部	岡山縣八女郡北山村小倉		
茨城支部	水戸市表信町	兵庫支部	同山市三門橋六九六ノ一		
千葉支部	千葉市表信町	岡山支部	岡山支部		
青森支部	青森市表信町				
富山支部	富山縣下新川郡下立村				
鹿兒島支部	鹿兒島縣大島郡古仁屋				
福岡支部	福岡縣八女郡北山村小倉				
岡山支部	岡山縣八女郡北山村小倉				
兵庫支部	同山市三門橋六九六ノ一				
岡山支部	岡山支部				

サッポロ
エビス
大日本麥酒株式會社



中澤銀行

東京市日本橋區

雑誌刊「俺達と政治」(二十錢部)	雑誌刊「組合運動」(十錢部)	雑誌刊「通俗社會主義」(十五錢部)	雑誌刊「我等の運動」(十錢部)	雑誌刊「自由人」(五錢部)
東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市外區葛飾区三五六	東京市外區葛飾区三五六	東京市外區葛飾区三五六
雑誌刊「労働者」(三錢部)	雑誌刊「労働運動」(十錢部)	雑誌刊「革命の失敗」(十錢部)	雑誌刊「青年に訴ふ」(十錢部)	雑誌刊「黒」(五錢部)
東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二
雑誌刊「黒」(五錢部)	雑誌刊「黒」(五錢部)	雑誌刊「黒」(五錢部)	雑誌刊「黒」(五錢部)	雑誌刊「黒」(五錢部)
東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二	東京市田區北中野町十二

黒耀會の經過

吉田 桂

一般無産者階級の人達も近頃は六分目が覺めて、昨日の惡も今日の善と悟り、既に新機の方法で創作にとりかゝつてゐる。處が今迄づつと永年手を變へ品を替へて壓迫と誤魔化して馴らされ切つて來たものだから、なか／＼お互いにそうチョツクラ一寸手でも洗ふやうな譯には行かぬので、まだかなり矛盾は残されてゐるのだ。その一つとしては藝術問題がある。労働者は餘りは生活が荒さみ靈も何も疲れてゐるために、すぐ目の前にある自分にとつては唯一の最善なる藝術が、月の世界の物でゐるかのやうに想像し、及ばぬ事と観念して納まり返つて仕舞つてゐる。甚だしきに至つては、自ら行ひつゝある藝術を藝術とは氣に付かず、中風患者の小便のたれ流し程にも感じないのだ。それで商賣人の持らへて呉れた化物をのみ藝術と心得てゐたのだから、分業制度は安全に續く。藝術は労働運動の邪魔物になるなど云ふ片手落ちのした贅言も出る。こんな文句の出る間は、吾々労働者も完全な人間には到底成り得ない。そしてその間は勿論資本家制度は萬々歳だ。だが可笑しい事には幾ら金力萬能でも権力萬能でも不平があるさうだ、一寸不思議な様だが合理的だ。凡てが他人任せに仕様とする處に起るのだ。風呂の加減だつて三助任せぢやどんな目に會ふか知れやしない。食ひ物の甘

い酸いも自分の舌より他に信じられるものはない。色合にしろ、音にしろ、如何に他人が撰に努力して呉れたからつて自分が疑ひならそれまでのことだ。何だつて自主自治に優るものは無からう。生活即藝術だ……作家は創作だ……斯んな談が仲間間で……秋に足々繰り返されてゐたが遂に、労働運動の研究会や、經濟革命の學術的研究の……持つて生れた性分から來る趣味に生きたい、せめてもの息抜きに云ふ譯で、革命藝術の研究会を開くことになり初聲を擧げたのが丁度去年の九月五日の晩であつた。最初の中は會合者もホンの四五名位であつたが段々に増へるやうになつて、十二月五日には、の名前も出來、會則なども出來て基礎が固まつた。今年の正月社會黨……の新年會には新橋の平民クラブに、横濱の金港亭に黒耀會員一同大奮闘で荒畑家村氏の脚本「電工」の上演や舞臺裝飾に於て民衆藝術處女作として公表したのだが意外に好評だつた。四月三、四兩日には牛込築土八幡前同好會で第一回作品展覽會開催、出品書畫百數十點、同志の健實なる努力に依り成績は豫想以上で都下の各新聞は筆を揃へて此の新らしい大膽な試みと成功を祝福されしは聊か流飲を下るに足る、續いて此處に展覽會と同一の主旨に依つて機關雜誌として「黒耀」を發刊する事になつた。又近々音楽會の催しや、その他にも色々新らしい計劃に就いて十分な研究と準備をすゝめてゐる。





俺達のパンは奪はれ着物は剥がれて、もう何を考へる氣力もなければ、首を括る元氣さへなく虫の様に只動いてゐるのだが、一瞬今迄俺達は、當てにもならぬものを鼻先へ釣り下げられて欺されて歩けばよい、一寸でも躊躇仕様ものなら直ぐに、イヤと云ふ程尻を打たれて歩くことを餘儀なくされて来たのだ。是れが人間の一生なら實に犬猫の方が遙にまじだ。そうかと云つて犬猫になれもせず、成りたてもない。そこには飽達人間としての生活を求めて止まない理想があるのだ。然し又どんな理想があつたにしろ、徒らに柵から牡丹餅を夢みてゐたからとて埒が明かないことも、獨りて幾ら力むだとしてそう安假に得られもしない事は良く知つてゐる。社會生活をしてゐる俺達は、唯民衆と共に……と云ふ事が第一條件で、こんなくだらぬ社會に先づ限りを附け、次に新社會を建設するのだが創造前に一つの大事なことあるのを忘れてはならない。其處で俺達は最も單純な方法として人間の感情生活の主なる事を知つてゐる。自

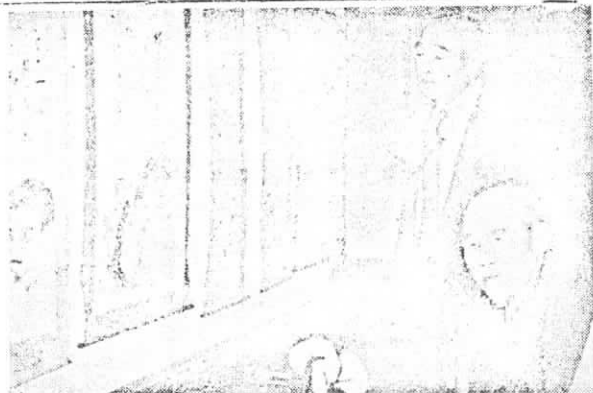
己の事、自分で決行するに誰に遠慮がいらない。只欲する儘に仕度い事をなし、厭やな事はやめるのだ。是れが俺達の爲らざる眞に唯一の生き方だ。成程斯う云ひ放しただけでは如何にも理智を蔑にする様に聞えるかも知れんが人間生活に理智は不必要だと云ふのではない。只偶像崇拜的な乾からびた様な屁理窟に引廻はされ追ひ廻されて小さく成つてゐなければならぬ様な時には確かに邪魔である。理智は人間の感情生活をよりよく自由に爲さしめるために必要だ。永い歴史が教うる參考としての突つかい括である。吾々人間行爲を主觀的に決定するものに矢張り感情であると思ふ。格一本倒すにしても只頭の中で理智を何時までもこれ廻してゐたつて、又幾ら理窟を言ひ合つたからつて倒れはしない。それよりも先づ思ひ合つたまゝに手を出してぶつかる事だ。俺達の貧乏銀債上、時間短縮は勿論、總ての利権、獲得は、只腹を膨らますためや、寒くなへだけけるためや、雨の漏らぬ處、風の吹かぬ處で休むためのみではなく、物質的に充分な慾望を充たし、尙且つ精神、享樂をも恣に仕度いと云ふ所謂自由を要求する生の力の表現である。繪でも、交でも、字でも、音楽でも、其の他全ての勞働でも、俺達に不必要なことは止めて、必要なことのみに、他人手をまたず直に接各日々に於て、意の儘に振舞つてこそ初めて社會的に、個人的にも眞に自由に藝術的、生活が生れよう。斯うなれば他人に強ひぬ。天も、寄るかゝる事もなければ不平も起らぬ。天下は此時初めて泰平だらう。

桂

僕は所謂展覧会へは出品しない。これは私の信念持論である。つまり芸術は自から楽しむもので、是れをこれ見よがしに公開する要はない。特に一般に行われて居る、審査を受けてから発表するのは意に添わない。売買を目的としないその作は他の評論に左右される物でもなければ、他の歎心を買用意図もない。因って一般からの理解と愛玩の対照とはならない。

彼等の需める趣味道楽とは縁なきものだ。従つて貧乏は付きもので、描く暇もなければ勿論描く絵具も資材も事欠き、一生小品粗画を描き続けただけで、これと言う個性的作もなく、八十余年問世間からは拗ね者、異端者として、人生行路の我業多だけが残った。

ところが此の処に突如天から降ったか地から湧いたかの
珍妙な現象が起った。それは親友丸山良策君がどう勘違
ひで、買い被ったものか、閑崎房太郎氏と相談の上、
新町美術館で、小生の描き屑洗ひ浚ひの絵を展示し
様と言う事になった。それに就き丸山曰く「君には怒ら
れるかも知れぬが」と言い訳の様に切り出した。俺は
「自からの本意ではないが他人の為そうとする自由まで
干渉はしないよ」と答へ。遂に僕は計らずも「遺作
展」と言うべきものを生きたがら、自からこの目で見
るという珍奇な事になった。



会場に姿をみせた望月様さん（右）と
随時原大助館長（左）が新開港を祝して

望月桂氏の作品展

家・夏月国(かつら)などの、七
十年間にもお茶園から八十六歳

[illegible]

西宮辰之助、山田、大正九年に
は芳島鶴郎、中里山、高橋貞太
郎、大杉らの作品を集めて「重刊
交文人曲集」を全巻出版した。

会館には、望月進が学生時代に
描いた鳥居の山嵐図、読新聞に
のせた花街の圖、渡田南雄圖
集、芳島鶴郎、關澤天、関本
平、田部鈞との合作作品などはじ
め、大正時代に、下宿でつづりて
ゐた大杉の、下宿とつづりてゐ
るきたる大杉のふたつ、關澤
大樹、車馬の下町水滸風雲、
と、日本近代の藝術を果するもの
が、珍奇にみえてゐる。

作品の形式、公刊と私刊のもの
の区別が、公刊は、たゞだん
の山嵐図、家畜、松村野影、
の閑閑房、交文人曲集との感心
すゝめて今も、やつと作品として
とびだした。

(12)

長野版

長野支局
長野市南黒川653
電話代表330267
(〒380)
松本支局
松本市大手2の8の17
電話代表33473

(千 390)
県内通信網

〔上野田〕	②	0713
〔上野田〕	②	0649
〔上野田〕	②	0805
〔上野田〕	②	0278
〔上野田〕	②	2239
〔上野田〕	②	1141
〔上野田〕	②	0011

ニュースの速報、専載の特
催などの速報は支局、支
かけ県内通信網へどうぞ



大正8-9年岩佐作太郎と久板卯之助



大正8-9年村木源次郎



久板卯之助この峠に凍死



大正10年煙に影ぼうし

黒色戦線社

天皇制破壊への渦動

埴谷雄高・大島英三郎ほか 300円

難波大助大逆事件

虎ノ門で皇太子(現天皇)を狙撃 900円

何が私をかうさせたか

金子ふみ子獄中手記/埴谷雄高跋 2000円

反逆者の牢獄手記

大杉栄・朴烈ほか10氏 200円

日本無政府主義運動史 第一編

石川三四郎ほか3氏 350円

自治民範 (全)

権藤成卿著作集/第1巻 3000円

農村自救論・日本農制史談

権藤成卿著作集/第2巻 3000円

労働運動〈復刻〉(新聞版)

第1-4次/大杉栄ほか編集発行 5000円

労働運動〈復刻〉(雑誌版)

第5次/近藤憲二ほか編集発行 [近刊]

大杉栄・伊藤野枝追悼号

『労働運動』大正13年3月号復刻 400円

ディナミック

石川三四郎個人誌復刻 3000円

差別とアナキズム 宮崎 見著

水平社運動とアナ・ボル抗争史 1600円

黒色戦線〈復刻〉

アナキズム文芸運動誌 5000円

黒色青年〈復刻〉

アナキズム最高の理論誌 2500円

群馬県伊勢崎市巾着町 大島英三郎方
電話0270(24)0776 振替/字都富11015

資料室・共学読書会室 東京都大田区西蒲田7-61-8 エンリコビル4階
電話03(735)1246 毎月第2・4日曜午後1時より共学読書会(公開)

■リベルテール Le Libertaire

■1976年7月15日 発行 VoL, VII, No. 8

■編集兼発行者 三浦精一

■発行所 東京都練馬区大泉学園町2190

萩原晋太郎方 リベルテールの会

毎月1回15日発行 振替東京133830番(三浦精一)



昭和3年和田栄を待つ望月桂と坂谷貴一〈四国旅行〉